

うつけ通信 vol.6

今回のうつけ通信は、「運」についてをテーマにしてみたいとおもいますが、運には幸運と不運とがありますが、誰しも運は良いにこしたことはないと考えてるのではないのでしょうか。

そこで宮本さんの本の題名にもなっている「衣食住はその人の運命を左右する」というフレーズについて、その意味を少し振り返って見ましよう。

地球から生まれた私たちは今現在も地球に育てられています。ですから、「地球と共生する生活」をすることによって始めて、私たちは自分の中にある本来の生命力が引き出され、心身ともに生き生きとしたほんとうの自分に還ることができます。生き生き楽しく暮らしている人に不運はやって来られません。また、生命力が甦ると、意識（無意識）が向上し、発想や直観力や判断力が冴えてきますから、どんどんツイてきます。楽しくてしかたのない毎日が送れるようになってきます。

この「生活」ということを具体的に言いかえたのが「衣食住」です。

ということ。今述べたことが衣食住はその人の運命を左右する」ということのタネ明かしです。

直感や判断力が冴えてくると、何が本物で何がニセモノなのかが見分けられるようにまでになってきます。例えば何かモノを買うという場面ひとつとってみても、真偽の見分けがつかなくてニセモノを掴まされるのは不運ですが、真偽の見分けがつけば騙されません。自ずと本物ばかりに恵まれるようになります。ここまできると不運になろうと思っただけでなかなか来ません。（笑）

「地球と共生する衣食住」はとても自然な形で「無意識の意識」に共鳴してくれるので、最高の自分自身を引き出してくれます。「無意識の意識」というものは、顕在意識よりもはるかに広大かつ精妙で、それは精神全体のうちのほとんどを占めています。衣食住はこの「無意識の意識」に働きかけてくれるのです。



さてここまでは無意識の意識へのアプローチ、ごく自然な形での運命好転ですが、もう一方の顕在意識の面からも幸運へのアプローチができるなら、それもまた楽しいことだとおもいます。

実は呼吸大学には顕在意識からのアプローチとして、秘伝のマニユアルというものがありません。そしてそれらはすべて『愚申蔵』と称される書庫に収められています。愚申蔵には、ニセモノと本物を見分けるためのマニユアルなんかも所蔵されているのです。

ところで、この愚申蔵の多くが秘伝になっているのには理由があります。別に出し渋っているというわけではありません。秘伝になっている理由の一つは、その内容は一般的な常識から相当かけ離れているので、ややもすれば勘違いされるだけにおわってしまうおそれがあるからです。またもう一つの理由は、これを聞いた人の中には突然怒り出す人もいるからです。怒りだす理由は簡単です。例えば、**「は本物、ニセモノ」と言った場合、自分が当てはまる人は良い気分がしないでしょう。人を怒らせて得なことは一つもないので秘伝なのです。**（笑）
 こういったことから、呼吸大学は今までの愚申蔵を、その価値を理解できるとおもえる方のみにお伝えさせていただいてきました。でもこの誌面ををご覧いただいている方は、「うつけ」の話でも聴いてやろうという奇特な方ばかりでしょうから、今回はその一部を公開させていただきます。うつけ通信をご覧いただいていることがすでに幸運な皆様に、さらに大きな幸運を得ていただければ幸いです。それでは秘伝『愚申蔵』本邦初公開です。

『護身術伝書』 根源真実弁別の秘策

一、鏡による看破の術

己の欲の正否の大略は鏡が証す。見よ、その実像がごときが、左右を逆さにして虚物なり。真実は自らにあり。目にするものは逆転の利己なり。偽物ほどに良く売れ人氣がある状況を喜ぶ幻想を看取す。

一、主語による看破の術

操作による成果は「人間」が主語。自然法則に生ずる均衡現象の成果は「人が従」なり。宇宙に育てられている己を知る者に、人を主語とする者なし。人を主語とするは、地球存続による我命を忘る故の自惚れの証。

一、百年単位比による看破の術

五十年の足跡の安全は如何様。二次、三次障害の皆無は千年の史実に勝らず。すなわち臨床史実の比較法理に基づくが故なり。

一、全体による看破の術

山を森と説き、森を林と言ふ。林を木や幹と追求するは虚物なり。その枝葉末節の夢心地は策略の餌。すなわち、融合共生を論ぜずは、身体が心臓のみで動くを説き、歩くは肉なりと教示がごとき。故に、食語る人の家を観て、住語るの食を觀る判別は的確なり。

一、循環による看破の術

取りつくすは、一知半解の死角の証。すなわち、天然資源枯渇に至る一部手法は虚物なり、循環の資源活用の全体觀の法は、無限恒久の確証。

一、食による看破の術

食は殺すにはじまり、生命を養うは殺生の法則と会得す。これを知り、食の主根は生命の連鎖にあるを解読す。白米は芽を出さず、玄米は芽を出す。これを知るは生命の連鎖が力と悟る。すなわち、その食に玄米の無き者は空洞の証なり。華美に喜樂を傾けるものに正道は見えず。

一、住いによる看破の術

室内にさわやかな春夏秋冬あるは誠。床に穴、天井に穴、屋根に穴なきは、如何様。壁光り、巨大無地を誇る木々に傾注すは虚物の証なり。

一、太るによる看破の術

太い身は血行の妨げによる麻痺の証。それ殺生の法理、食の道理に無知な虚物なり。その無知狂盲の物指しに照らす分別判断が正なる論説を成す事なし。

一、髭による看破の術

髭生やす者、権力に大欲の証。その欲望に

合う内容を自らに持さぬ故なり。すなわち、髭の威に頼る膨張の威嚇。それ学識歴を匂わし、知能輕少をくらます頑迷の証。

一、眼による看破の術

キョロキョロと目が動くものは偽者。キョロ目ギラリ目には近寄るべからず。必ず裏切り持ち去る賊となるなり。

講演会のお知らせ

二〇〇五春 特別企画

宮本喰悟先生 三回連続セミナー in 大阪

『誰も知らない話』

ところがそれが真実だ

日時

2月13日(日) 3月13日(日) 4月10日(日)

各日とも午後1時〜4時45分

会場

茨木市男女共生センター「ローズワム」

お問い合わせ&申し込み

ゼロ企画大阪支部 担当 辻

TEL 0724・67・0644

FAX 0724・67・0088

